

町政懇談会（安座地区）会議録

1. 開催日時

平成24年11月18日（日）午前9時30分から

2. 対象地区・団体

安座自治区

3. 代表者名

安座自治区長 長谷川隆夫（参加者数：34名）

4. 開催会場

安座集会所

5. 町出席者

町長 伊藤 勝、企画情報課長 杉原徳夫、建設水道課長補佐 野原竹夫、
農林振興課長補佐 長谷川浩一

6. 町政方針説明

本日は副町長がふくしま駅伝の応援のため欠席である。昨年の順位は最下位と残念な結果であったが、何故かと考えてみると、毎年開催が近づいてから選手を中学生中心に選考している。層が薄いため仕方がないことだが、やはりレベルに差が出てしまう。しかし現在、県内59市町村中51市町村が参加しており、残り8町村は選手を集めることができず棄権している。わが町も棄権することなく、これからも参加できるよう頑張っていきたい。

さて、町長に就任してから、早いもので3年が経過し、来年は改選となる。振り返ってみると、最初の年はクマの出没騒動があり、また豪雪により国道49号線で車300台が立ち往生し全国ニュースとなった。一昨年から今年にかけては東日本大震災、新潟・福島豪雨など、かつてないほどの災害続きであり、その対応に追われる日々だった。幸い西会津町は震災の影響は少なく、放射線の線量も県内ではかなり低い方である。野菜はもちろん、今年行った米の全量全袋検査でもすべて基準値内であった。しかし、都市部や関西方面では福島県産というだけでなかなか受け入れてもらえないのが現状である。そこで、沖縄や横浜、世田谷などに出向いたり、さまざまなイベントを通して西会津産の農産物の安全性をPRし、イメージ回復を図っている。最近ではよりっせの方にも客足が戻り、お客さんから農産物の放射能の影響についての問い合わせも減少している。

こうした災害や風評被害に遭っても、町政は着実に進展していると思う。町の人口は毎年150人ぐらいずつ自然減少し、高齢化率も40%を超え、会津管内でも上位にある。しかし私はこうしたことが町の発展の妨げになるとは考えていない。高齢化は全国どこの地域でも進んでいく問題であり、その中で、町がどのような政策で対応していくかが大事だと考えている。

現在の高齢者の生活の実態は年金収入を主としている方が多いが、それだけで生活するには年々厳しくなっており、国の制度が変われば年金の減額もある。そこで、働けるうちは働き、収入に結びつくような町づくりを行っていくことが大切ではないかと思う。奥川地区は地域づくりのモデル地区として活動を行ってきたが、活動当初の4年前と比べて地域の方々が積極的に行うようになってきている。奥川を經由して宮古に向かう途中には、宮古そばの看板があちこちに立てられている。ならば、宮古に行く前に奥川でそばを提供することはできないかと皆で考え、3年前からそば祭りを開催するようになった。現在は宮古のそばよりも美味しいと評判を得、日曜日には使われていない寄宿舎や保育所などの施設を利用し、地域の方々が材料などを持ち寄って、そばや物品を販売している。これが地域の経済に大きな効果を発揮するほどではないにしても、実際に物を売っている方にとっては着実に収入となっている。また、奥川健康マラソンの時には山菜などを売って収益にしている方もいる。

橋屋地区では4～5年前からそば祭りを開催しているが、現在は400～500人ほどの来場があり、集落総出で対応している。

7. 意見交換

① 安座川上流部砂防地域における河川改修の県に対する要望について

(意見) 山が崩れて通れなくなったときに駆けつけたのは消防団2人と牧集落の方のみ。

役場職員は誰も来なかった。緊急時はせめて1~2名は来てほしい。

(意見) 昨年の豪雨で杉の木が20本ほど倒れたため、3日ほどかけてチェーンソーを使って細く切り、大きなものは専門業者に撤去してもらった。災害があつてからでは遅いので、重機を使って川の流れを変える等、対策を取ってほしい。

(町長) 決壊箇所については、なぜか杉林部分を除いて護岸工事を行っている。杉林の奥の方は崩れかかっているため、まずは県に川の流れを修正してもらい、残った倒木も取り除くよう要請する。もしくは喜多方建設事務所に話をし、町から直接業者に依頼するようにするので、もうしばらく待っていただきたい。

(意見) 以前はもっと川の幅は狭かったが、徐々に広がってしまっている。広がった部分の土地については、もう河川とみなすのか。元々の持ち主のものなのか。

(建設水道課長補佐、町長) 川が広がったままの状態、元に戻すことができないのであれば、その部分はもう河川とみなす。

(意見) 関根から大下橋の土砂撤去を実施してもらったが、上流の部分がまだ終わっていない。要望を出しているが、いつ頃になるのか。

(建設水道課長補佐) 既に地域課題検討会に要望しているが、他に3つの要望がでており、県が決めた重要度の高い順から実施していくので、こちらもう少し待っていただきたい。

② 農業経営の課題について

(自治区長) 安座地区は、昭和44年から50年にかけて、土地改良区による区画整備で29.5haが完全農地となった。しかし、現在は高齢化が進み、経営や作業委託をする人が増えたが、その委託先も高齢化し、委託の解消、農地返還の動きが増えている。今後の農地維持管理について、対策をお願いしたい。

(農林振興課長補佐) 高齢化や後継者不足による農業経営状況悪化は、いまや全国的な問題となっていることから、今年度より国で「人・農地プラン」を策定した。これは、5年後、10年後の農地をどう守っていくかということ、集落や地域全体で話し合っ問題点を挙げ、それを解決するための「未来の設計図」となるプランを作成するものであり、具体的には、今後農地管理の中心となる人や、リタイヤした場所の農地管理をする人、リタイヤしても農作業の一部(草刈りのみ、水の管理のみなど)を分担する人などの役割を決めるため、アンケートを取って集約し、それをもとに計画書を作成して町と自治区で話し合いを重ね、農業経営維持のためのプランを作成するものである。また、農地集積協力金、規模拡大拡散、青年就業給付金などの助成もある。機械整備に関して国からの助成もあるが、平成25年度以降は「人・農地プラン」を作成しないと助成の対象にはならない。町では現在4集落に説明会を行い、アンケートの集約まで進んでいる。安座地区も今後農林振興課による説明会を行い、事業の進め方を区長さんと話し合っ、皆さんの理解を得たらアンケートを取って具体的に進めていくので、前向きに検討いただきたい。また、集落営農や法人化による管理などの方法もあるので、後ほど担当職員と進めていただきたい。

(意見) 「人・農地プラン」を進める前に、安座地区は後継者、新規参入者などの担い手がない。どうすればいいのか。

(農林振興課長補佐) 現在安座地区内の農地管理の委託を受けている牧、堀越地区の方に面積を増やしてもらうなどして、遊休農地解消に努めていきたい。

・意見交換

(意見) 町道にかかるスノーシェットの、2つめのカーブにガードレールがあるが、その下では牧、塩喰地区の水を取っているため中の部分が抜けており、道路が今にも落ちそうだ。山側の方に移動するよう、何度か要望しているが、いつになるのか。

(町長) 二瓶町長の頃だったか、スノーシェットを建てる際、要望にあるような改修を計画したが、土地の所有者の問題があり、そのままになってしまって現在に至る。県の事業では、災害が起きると災害復旧として整備するが、危険回避のための道路整備には厳しくなっている。行くとすれば、町独自で計画を立て、予算を組まなければならない。勾配の都合で今のカーブがあるので、それを無くすには問題となった土地も含めて山の中央部分を下げるといふ、かなり大規模な工事となるので、集落内で改めて具体的な要望をまとめていただきたい。それと、まだ計画してはいないが、牧地区の坂と橋を改修できればと考えている。こちらにもトンネルを貫通させ、路線変更するという大規模な事業となるので、牧地区と共同で話し合っただけで要望をまとめていただけたらと思う。